

日本図書館文化史研究会奨励賞

奥泉和久氏『近代日本公共図書館年表』について

日本近代公共図書館の領域の最初の本格的な年表であり、日本近代公共図書館史研究に欠くことができない参考図書といえる。歴大な情報を多種多様な情報源から収集し、原典に当たって確認している。またすべてについて1件ごとに十分に吟味した上で、項目として採用しており、すべての項目についてその典拠文献を示す記号があり、巻末の「典拠文献一覧」でみることができる。

構成は、明治—1945年を「近代公共図書館の成立」として p.2-116(約100頁)、1945-1980年を「戦後公共図書館の展開」として p.118-226(約100頁)、1981-1990年を「現代社会における図書館の役割と課題」として p.228-329(約100頁)となっているが、この配分は適切であり、それぞれの時代のタイトル、そのもとに時代の特徴が書かれている。各項目の採用の仕方とともに奥泉氏の歴史観に裏付けされている。

項目の採択も広い目配りに基づいている。住民運動から国の政策、図書館界全体の動向までをとりこみ、とくに公共図書館については、さまざまサービス、その工夫に目を及ぼしている。

読みやすくする工夫、読んで楽しい工夫が各所にみられる点も特筆すべきである。コラム、人物紹介、写真、などが豊富にとりいれられている。綿密な索引のほか、典拠文献一覧、写真・図版等出典一覧も有用である。

もちろん抜け落ちている項目も少なくないだろうが、それを最もよく知っているのも奥泉氏ご本人であろう。いずれ、改訂版を出し、より充実した年表になっていくことを願っている。